

令和元年度事業分 事務事業評価シート

<事業の名称等>

予算	款	10	教育費	項	05	社会教育費	目	08	文化振興費
大	事業	001	文化振興事業	中	事業	01	文化振興事業		
小	事業							他 事業	

1.事業の位置付け

旧総合計画	基本構想	7	生涯を通じて学び・育つまちづくり	所管部局	教育委員会事務局
	基本計画	7-4	歴史・文化・芸術の伝承と振興		文化課
旧総合戦略	政策パッケージ				
	施策				
事業区分	自治事務（任意的なもの）		事業種別	ソフト事業	
根拠法令	有	文化芸術基本法			
根拠例規	有	坂井市全国文化芸術大会出場激励金支給要綱ほか			
関連計画・マニュアル	有	坂井市教育振興基本計画			

2.事業の目的・概要

【事業の目的】		
文化芸術分野の全国大会以上に出場する市民に対し、大会での活躍を激励するとともに激励金を支給し、本市の文化芸術の向上を図る。また、市民が主体となって活動する「坂井市文化未来会議」を開催し、幅広く市民の意見を求め、市の文化施策推進を図る。		
【事業の概要】		
○報償費	全国大会等出場激励金	430千円
○需用費		9千円
	消耗品費（事務用品）	3千円
	食糧費（会議用お茶）	3千円
	修繕料（一間一戸薬医門看板修繕）	3千円
○使用料及び賃借料		136千円
	車両借上料・入場料 （文化未来会議視察研修：七尾市内）	
○備品購入費	展示用備品購入費（文化祭展示用パネル）	6,145千円

3.旧総合戦略記載事項

旧総合戦略 記載事項	
---------------	--

4.事業のコスト

(単位：千円)

	令和元年度	平成30年度	平成29年度	元・30年度比	
コスト	事業費	6,720	3,833	5,445	2,887
	人件費	3,019	4,412	4,344	△ 1,394
	総事業費	9,739	8,245	9,789	1,494
人員	正職員	0.45 人	0.66 人	0.62 人	△ 0.21 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	人員計	0.45 人	0.66 人	0.62 人	△ 0.21 人
財源内訳	国県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	0	0	53	0
	一般財源	9,739	8,245	9,736	1,494

5. 事業の目標値と実績等

評価指標		単位	年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
指標	全国大会出場者数	人	目標	30	50	40	40	30
			実績		42	71	50	36
			達成率(%)	0.0	84.0	177.5	125.0	120.0
指標	指標の説明		年度内に申請のあった全国大会等出場者数					
指標			目標					
			実績					
			達成率(%)					
指標	指標の説明							
指標			目標					
			実績					
			達成率(%)					
指標	指標の説明							
指標に基づく評価	令和元年度については、新型コロナウイルスの影響で2月・3月の全国大会等が中止になり、その結果例年よりも全国大会出場者数が減少しましたが、国際大会出場者も出ており、年々、個人での全国出場者は増加傾向にあるため、今後も継続した周知に努めていきます。							

6.事業に対する評価

現状と課題	効率性に課題			文化未来会議では様々な分野の代表者より、市の文化振興に対する活発な意見をいただいております。引き続き中長期的な視点で取り組んでいきます。激励金支給においては、各種大会も多様化し、支給に該当するかどうか判断し難い場合もあり、支給要綱および内規等の見直しも考えていく必要があると考えています。
成果と改善点	全国大会出場42個人に対して激励金を贈り、大会での活躍を激励しました。また、坂井市文化未来会議では、国指定の重要無形民俗文化財である青柏祭など（七尾市内）を視察し、七尾の歴史を知るとともに、保存継承に対する取り組みを学びました。また、幅広い分野の委員から文化財の保存活用等についてもアドバイスをいただき、今後も意見を取り入れながら文化教育普及事業に取り組んでいきます。			

7.令和2年度から令和6年度間（第2次総合計画前期期間）の方向性

事業の方向性	継続	
方向性の理由		

令和元年度事業分 事務事業評価シート

<事業の名称等>

予算	款	10	教育費	項	05	社会教育費	目	08	文化振興費
大事業	001	文化振興事業			中事業	06	文化団体補助事業		
小事業							他 事業		

1.事業の位置付け

旧総合計画	基本構想	7	生涯を通じて学び・育つまちづくり		所管部局	教育委員会事務局
	基本計画	7-4	歴史・文化・芸術の伝承と振興			文化課
旧総合戦略	政策パッケージ	1	移住・定住の促進			
	施策	1-2	Uターンの促進			
事業区分	自治事務（任意的なもの）		事業種別	補助金事業（団体補助）		
根拠法令	有	文化芸術基本法				
根拠例規	有	教育委員会文化課所管補助金等交付要綱				
関連計画・マニュアル	有	坂井市教育振興基本計画				

2.事業の目的・概要

【事業の目的】
地域性豊かな伝統文化の継承と文化活動の振興を図ることを目的に、（公財）丸岡文化財団及び（公財）坂井市文化振興事業団、各種文化団体で組織する坂井市文化協会が実施する文化活動事業を支援する。

【事業の概要】

○補助金 118,794千円

丸岡文化財団運営補助金 50,596千円
坂井市文化協会事業補助金 2,600千円
坂井市文化振興事業団運営補助金 65,598千円

3.旧総合戦略記載事項

旧総合戦略記載事項	<ul style="list-style-type: none"> ■一筆啓上PRの拡充（中高生に、地域の魅力を再発見し、地域活性化の担い手となってもらうことを目的に実施する） ■一筆啓上PRツアー ■一筆啓上賞
-----------	--

4.事業のコスト

（単位：千円）

	令和元年度	平成30年度	平成29年度	元・30年度比	
コスト	事業費	118,794	116,201	44,788	2,593
	人件費	2,616	1,939	2,102	677
	総事業費	121,410	118,140	46,890	3,270
人員	正職員	0.39 人	0.29 人	0.30 人	0.10 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	人員計	0.39 人	0.29 人	0.30 人	0.10 人
財源内訳	国県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0	0
	一般財源	121,410	118,140	46,890	3,270

5. 事業の目標値と実績等

評価指標		単位	年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
指標	文化協会会員数	人	目標	2,100	2,300	2,400	2,600	2,800
独自指標			実績		2,047	2,308	2,339	2,588
			達成率(%)	0.0	89.0	96.2	90.0	92.4
指標	指標の説明		加入団体活動による坂井市文化協会の会員数					
指標	文化協会活動事業数	件	目標	70	80	100	100	100
独自指標			実績		59	76	86	81
			達成率(%)	0.0	73.8	76.0	86.0	81.0
指標	指標の説明		坂井市文化協会が行う主催・共催・後援事業等の件数					
指標	一筆啓上賞応募総数	件	目標					
独自指標			実績		32,106	39,468	38,182	44,348
			達成率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
指標	指標の説明		丸岡文化財団が行う主催事業への参加数					
指標	文化振興事業団活動事業数	件	目標	40.0	40	40	40	
独自指標			実績		48	39	46	
			達成率(%)	0.0	120.0	97.5	115.0	0.0
指標	指標の説明		坂井市文化振興事業団が行う主催・共催・自主事業等の件数					
指標に基づく評価	文化協会は会員数が年々減少するなか、大人から子どもまで幅広く文化活動に参加できる企画運営を担い、市の文化振興に大いに貢献しています。一筆啓上賞は全国的にも定着しており、さらなる応募者数の増に取り組んでいきます。文化振興事業団は施設のリニューアルとともにニーズに即した事業に取り組んでいきます。							

6.事業に対する評価

現状と課題	効率性に課題			
<p>高齢化に伴う文化協会の会員数が減少するなか、団体の自助努力による市の文化振興に対する貢献度は大きいものと思われます。丸岡文化財団および坂井市文化振興事業団は、市の指定管理施設として地域文化の育成・継承のため連携していくことが重要です。引き続き、一筆啓上賞事業や舞台芸術公演の企画運営を始め、地域団体の活動発表の場の提供などに取り組んでいきます。</p>				
成果と改善点	<p>坂井市文化協会は、総合美術展や子ども文化祭を開催する中で、大人から子どもまで幅広く文化活動に参加できる企画運営を担い、市の文化振興に貢献しています。丸岡文化財団が主催する一筆啓上賞は、市を代表する事業として定借しており、全国各地から応募があります。また、まるおか子供歌舞伎事業においては、役者募集から稽古、本番まで地域との連携のなかで個性豊かな伝統芸能の継承を図っています。坂井市文化振興事業団は、ハートピア春江及びみくに未来ホールにおける舞台芸術公演の企画運営を始めとする地域団体の活動発表の場を提供するなど、市民の文化意識の向上や次世代育成に対して大きく貢献しています。</p>			

7.令和2年度から令和6年度間（第2次総合計画前期期間）の方向性

事業の方向性	継続	
方向性の理由		

令和元年度事業分 事務事業評価シート

<事業の名称等>

予算	款	10	教育費	項	05	社会教育費	目	08	文化振興費
大	事業	001	文化振興事業	中	事業	11	文化活動支援事業		
小	事業							他 事業	

1.事業の位置付け

旧総合計画	基本構想	7	生涯を通じて学び・育つまちづくり	所管部局	教育委員会事務局
	基本計画	7-4	歴史・文化・芸術の伝承と振興		文化課
旧総合戦略	政策パッケージ				
	施策				
事業区分	自治事務（任意的なもの）		事業種別	ソフト事業	
根拠法令	有	文化芸術基本法			
根拠例規	無				
関連計画・マニュアル	有	坂井市教育振興基本計画			

2.事業の目的・概要

【事業の目的】
優れた舞台芸術公演を鑑賞する機会や発表する場を提供することにより、地域の文化芸術水準の向上や活性化を図るとともに、市民の文化活動への積極的な参加を推進する。

【事業の概要】

- 委託料 17,908千円
 - 文化祭業務委託料（坂井市民文化祭実行委員会） 4,988千円
 - 公演業務委託料（坂井市文化振興事業団：21事業） 12,000千円
 - 市民文化創造企画支援事業委託料（坂井市文化振興事業団） 920千円

3.旧総合戦略記載事項

旧総合戦略 記載事項	
---------------	--

4.事業のコスト

(単位：千円)

	令和元年度	平成30年度	平成29年度	元・30年度比	
コスト	事業費	17,908	18,348	39,797	△ 440
	人件費	3,019	2,674	2,523	345
	総事業費	20,927	21,022	42,320	△ 95
人員	正職員	0.45 人	0.40 人	0.36 人	0.05 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	人員計	0.45 人	0.40 人	0.36 人	0.05 人
財源内訳	国県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0	0
	一般財源	20,927	21,022	42,320	△ 95

5. 事業の目標値と実績等

評価指標		単位	年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
指標	文化祭来場者数	人	目標	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
			実績		10,310	10,014	10,257	12,098
			達成率(%)	0.0	103.1	100.1	102.6	121.0
指標の説明								
指標	公演事業入場者数	人	目標		6,766			
			実績		5,578			
			達成率(%)	0.0	82.4	81.0	81.0	67.0
指標の説明		入場者数/設定席数（企画によって設定席数が異なり実績値のみ）						
指標			目標					
			実績					
			達成率(%)					
指標の説明								
指標			目標					
			実績					
			達成率(%)					
指標の説明								

指標に基づく評価
各団体の周知・広報活動により、一定の目標はほぼ達成できていますが、今後も自助努力による継続した活動は必要であると思います。

6.事業に対する評価

	妥当性に課題	効率性に課題	
現状と課題	文化祭は実行委員会に委託し、市内4会場いずれも盛況でした。今後も、市民の文化活動の活性化が図られるよう、参加者・団体からの意向をもとに市民のニーズに添えていくことは必要であると思います。公演事業は、様々なジャンルのアーティストによる公演を始め、市民参加・育成型事業にも取り組んでいます。ジャンルによっては集客率に差が生じており、来場者アンケートによる市民ニーズの把握や採算性を踏まえた受益者負担の設定が課題であると考えます。		
成果と改善点	文化祭事業は実行委員会に委託し、市内4会場それぞれで芸能・展示発表を行い、いずれの会場も盛況で、例年よりも多くの来場者数となりました。今後も、市内の文化ホール等を有効に活用しながら、市民の文化活動の活性化が図られるよう事業に取り組んでいきます。公演事業では、音楽・古典芸能・演劇など様々なジャンルのアーティストによる公演を始め、地元出身の音楽家によるコンクールや有志者で構成する市民劇団の演劇など、市民参加・育成型事業にも取り組んでいます。今後もニーズに即した企画を取り入れていきます。		

7.令和2年度から令和6年度間（第2次総合計画前期期間）の方向性

事業の方向性	継続	
方向性の理由		

令和元年度事業分 事務事業評価シート

<事業の名称等>

予算	款	10	教育費	項	05	社会教育費	目	08	文化振興費
大事業	001	文化振興事業			中事業	21	一筆啓上手紙の館管理運営事業		
小事業							他 事業		

1.事業の位置付け

旧総合計画	基本構想	7	生涯を通じて学び・育つまちづくり		所管部局	教育委員会事務局
	基本計画	7-4	歴史・文化・芸術の伝承と振興			文化課
旧総合戦略	政策パッケージ	1	移住・定住の促進			
	施策	1-2	Uターンの促進			
事業区分	自治事務（任意的なもの）		事業種別	指定管理事業		
根拠法令	有	文化芸術基本法				
根拠例規	有	坂井市一筆啓上日本一短い手紙の館条例、同条例施行規則				
関連計画・マニュアル	有	坂井市教育振興基本計画				

2.事業の目的・概要

【事業の目的】
「手紙の館」の管理運営を担う（公財）丸岡文化財団は、一筆啓上賞の作品を始めとする手紙にまつわる企画等を展開し、丸岡城と連携した文化と観光の充実を図る。

【事業の概要】
 ○報償費 運営審議会委員謝礼（3名） 45千円
 ○役務費 手紙の館火災保険料 110千円
 ○委託料 事業運営委託料（丸岡文化財団） 14,000千円

3.旧総合戦略記載事項

旧総合戦略 記載事項	<ul style="list-style-type: none"> ■一筆啓上賞 ■手紙の館管理運営事業 ■一筆啓上PRの拡充 （中高生に、地域の魅力を再発見し、地域活性化の担い手となってもらうことを目的に実施する）
---------------	--

4.事業のコスト

（単位：千円）

	令和元年度	平成30年度	平成29年度	元・30年度比	
コスト	事業費	14,154	14,148	13,596	6
	人件費	2,147	2,741	2,943	△ 594
	総事業費	16,301	16,889	16,539	△ 588
人員	正職員	0.32 人	0.41 人	0.42 人	△ 0.09 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	人員計	0.32 人	0.41 人	0.42 人	△ 0.09 人
財源内訳	国県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0	0
	一般財源	16,301	16,889	16,539	△ 588

5. 事業の目標値と実績等

評価指標		単位	年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
指標	手紙の館入館者数	人	目標	50,000	50,000	50,000	15,000	15,000
			実績		46,260	46,409	47,027	21,394
			達成率(%)	0.0	92.5	92.8	313.5	142.6
指標	指標の説明	PR活動等による入館者数						
指標			目標					
			実績					
			達成率(%)					
指標	指標の説明							
指標			目標					
			実績					
			達成率(%)					
指標	指標の説明							
指標			目標					
			実績					
			達成率(%)					
指標	指標の説明							
指標に基づく評価	丸岡城との共通入場券により、入館者増に向けた取り組みを図っていますが、丸岡城観光客が必ずしも手紙の館を訪れているわけではないため、さらにPRをしていくべきだと考えます。また、企画展や毎月の「ふみの日企画」に趣向を凝らし、広く参加者を募集することも必要だと思われます。							

6.事業に対する評価

現状と課題	有効性に課題		
丸岡城との共通入場券導入により、入館者数は増加したが横ばい傾向にあることから、引き続き丸岡城と一体化した観光客誘客に努めていく必要があります。			
成果と改善点	丸岡文化財団に「手紙の館」の事業運営を委託し、一筆啓上賞の作品や手紙をテーマにした企画展等を実施しています。入場者を増やすため、趣向を凝らした「ふみの日企画」の開催や企画展をさらにPRするなど、工夫も必要だと思われませんが、施設の運営状況に対して、引き続き運営審議会で検討・助言等を行いながら、丸岡城と連携した地域のにぎわい創出を図っていきます。		

7.令和2年度から令和6年度間（第2次総合計画前期期間）の方向性

事業の方向性	継続	
方向性の理由		

令和元年度事業分 事務事業評価シート

<事業の名称等>

予算	款	10	教育費	項	05	社会教育費	目	08	文化振興費
大事業	051	文化施設管理運営事業			中事業	02	文化の森・みくに市民センター管理運営事業		
小事業	01	文化の森・みくに市民センター管理運営事業			02	省エネ対策事業		他 事業	

1.事業の位置付け

旧総合計画	基本構想	7	生涯を通じて学び・育つまちづくり		所管部局	教育委員会事務局
	基本計画	7-4	歴史・文化・芸術の伝承と振興			文化課
旧総合戦略	政策パッケージ					
	施策					
事業区分	自治事務（任意的なもの）		事業種別	指定管理事業		
根拠法令	有	地方自治法				
根拠例規	有	坂井市文化の森・YURI文化情報交流館条例、みくに市民センター条例ほか				
関連計画・マニュアル	有	坂井市教育振興基本計画				

2.事業の目的・概要

【事業の目的】
文化施設の適切な維持管理を行うとともに、市民の文化活動の振興と文化的資質の向上を図る。

【事業の概要】

- ◆文化の森・みくに市民センター管理運営事業 本庁 80,574千円
 - 需用費 270千円
施設等修繕料（みくに市民センター作品設置修繕）
 - 役務費 236千円
ハートピア春江・みくに市民センター火災保険料 164千円
展示・収蔵資料損害保険料（小野忠弘作品） 72千円
 - 委託料 73,146千円
指定管理者委託料（坂井市文化振興事業団）
 - 使用料及び賃借料 文化の森敷地借上料（18,875㎡） 3,820千円
 - 負担金 3,102千円
指定管理者修繕料負担金（ハートピア春江非常用発電機用蓄電池設備）
- ◆省エネ対策事業 本庁 123千円
 - 使用料及び賃借料 デマンド監視システム使用料 123千円

3.旧総合戦略記載事項

旧総合戦略記載事項	
-----------	--

4.事業のコスト

（単位：千円）

	令和元年度	平成30年度	平成29年度	元・30年度比	
コスト	事業費	80,697	89,919	116,018	△ 9,222
	人件費	4,561	4,011	4,274	550
	総事業費	85,258	93,930	120,292	△ 8,672
人員	正職員	0.68 人	0.60 人	0.61 人	0.08 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	人員計	0.68 人	0.60 人	0.61 人	0.08 人
財源内訳	国県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	0	16,800	791	△ 16,800
	一般財源	85,258	77,130	119,501	8,128

5. 事業の目標値と実績等

評価指標		単位	年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
指標	独自指標	人	目標		108,000	108,000	110,300	110,000
			実績		74,737	93,148	108,810	113,573
			達成率(%)		0.0	69.2	86.2	98.6
指標の説明								
指標	独自指標	人	目標	18,000	18,000	18,000	7,000	
			実績		20,861	21,060	12,805	
			達成率(%)		0.0	115.9	117.0	182.9
指標の説明								
指標	独自指標	人	目標				7,750	15,000
			実績				18,844	146,597
			達成率(%)		0.0	0.0	0.0	243.1
指標の説明								
指標			目標					
			実績					
			達成率(%)		0.0	0.0	0.0	0.0
指標の説明								
指標に基づく評価	ハートピア春江は、大規模イベントでの利用が減少し、新型コロナウイルスの影響で3月の利用者が減少したため、利用者数は前年度を下回りました。みくに市民センターは、新ホール開館以降、利用が増え、目標値を上回りました。今後も市民に優れた文化芸術を鑑賞する機会の提供や市民の文化の裾野が広がる事業の展開を求めています。							

6.事業に対する評価

現状と課題	効率性に課題			<p>両館とも限られた人員数のなかで施設運営を行っており、突発的な故障等が発生した際には対応等に苦慮している現状です。また、市民育成型事業や参加型事業など採算性は低くても有効性の高い事業を進めていくため、現状の指定管理者のような公益財団法人に事業委託することが望ましいですが、適正な管理運営に対する市としての指導は課題であると考えます。</p>
成果と改善点	<p>施設の故障等の対応については、ハートピア春江が大規模改修工事の着手に向けて最終協議を進め、契約を締結しました。みくに市民センターは、施設の適正な維持管理を行いました。また、地域に根ざした文化芸術の活動拠点として、活動を続ける個人や団体と積極的に関わり、活動への参加の機会を創出し、担い手の育成や地元施設との文化交流を実施しました。両館の特性を活かしながら、市民育成型事業や参加型事業などに取り組み、市民の文化意識の向上を目指した施設の運営に取り組んでいきます。</p>			

7.令和2年度から令和6年度間（第2次総合計画前期期間）の方向性

事業の方向性	継続	
方向性の理由	<p>今後も地域に根ざした文化芸術の活動拠点として、指定管理者に施設管理を委託し、適切な維持管理と文化活動の振興と文化的資質の向上を図っていきます。</p>	

令和元年度事業分 事務事業評価シート

<事業の名称等>

予算	款	10	教育費	項	05	社会教育費	目	09	文化財保護費
大	事業	001	文化財保護審議会運営事業	中	事業	02	文化財保護審議会運営事業		
小	事業							他 事業	

3.旧総合戦略記載事項

旧総合戦略 記載事項	
---------------	--

1.事業の位置付け

旧総合計画	基本構想	7	生涯を通じて学び・育つまちづくり	所管部局	教育委員会事務局
	基本計画	7-4	歴史・文化・芸術の伝承と振興		文化課
旧総合戦略	政策パッケージ				
	施策				
事業区分	自治事務（任意的なもの）		事業種別	ソフト事業	
根拠法令	有	文化財保護法			
根拠例規	有	坂井市文化財保護条例、坂井市文化財保護審議会規則			
関連計画・マニュアル	有	坂井市教育振興基本計画			

2.事業の目的・概要

【事業の目的】 新たな文化財の指定や解除に関する諮問や、市の文化財保護施策に関する討議などを通して、文化財の保護を図る。		
【事業の概要】		
○報酬	文化財保護審議会委員報酬（8名）	184千円
○旅費	文化財保護審議会委員費用弁償	1千円
○需用費	食糧費（文化財保護審議会お茶代）	3千円

4.事業のコスト

(単位：千円)

	令和元年度	平成30年度	平成29年度	元・30年度比	
コスト	事業費	188	187	189	1
	人件費	3,958	3,008	3,924	949
	総事業費	4,146	3,195	4,113	950
人員	正職員	0.59 人	0.45 人	0.56 人	0.14 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	人員計	0.59 人	0.45 人	0.56 人	0.14 人
財源内訳	国県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0	0
	一般財源	4,146	3,195	4,113	950

5. 事業の目標値と実績等

評価指標		単位	年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
指標	会議開催数	回	目標	3	3	3	3	2
			実績		3	2	3	2
			達成率(%)	0.0	100.0	66.7	100.0	100.0
指標の説明								
指標	処理議案数	件	目標	4	4	4	4	4
			実績		5	11	6	6
			達成率(%)	0.0	125.0	275.0	150.0	150.0
指標の説明								
指標	会議1回当たり議案処理件数	件	目標	2.0	2	2	2	2
			実績		2	6	2	3
			達成率(%)	0.0	80.0	300.0	100.0	150.0
指標の説明								
指標			目標					
			実績					
			達成率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
指標の説明								
指標に基づく評価	文化財に関連した種々の案件が増大傾向にあるため、令和元年度から議案を精査し、軽微な議案は報告事項として処理したため、前年度から議案数が減少しました。市の文化財保護のため、今後とも継続して会議を開催します。							

6.事業に対する評価

現状と課題	効率性に課題			文化財保護に関する審議は非営利的な面が多くあり、民間ではなく行政が行うのが妥当であると考えます。現状は、議案・報告事項が多量目つ多岐に及ぶ内容であり、審議時間が長大に及ぶため、より効率的な審議会運営が必要となっています。このため、平成30年度から、審議資料を委員に事前送付し、審議時間の効率化を図っています。また、審議内容と軽微な報告事項をさらに精査することで、充実した審議会とすることも課題です。専門性の高い会議のため、他との統合等は困難ではありますが、類似・関連事業への情報提供等により、関連する事業全体の成果を向上させる可能性があると考えます。
成果と改善点	<p>適正な審議会運営のもと、新規文化財の指定や文化財保護にかかわる調査等を遂行しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の新規指定 1件（称念寺文書） ・市内古文書調査・整理 1件 ・市内仏像調査 1件（春江町辻） ・市内絵画調査 1件（春江町本堂） ・市内建造物調査 1件（丸岡町楽間） 			

7.令和2年度から令和6年度間（第2次総合計画前期期間）の方向性

事業の方向性	継続	
方向性の理由	今後の文化財の調査や新規指定等のため、定期的目つ継続的に実施予定です。	

令和元年度事業分 事務事業評価シート

<事業の名称等>

予算	款	10	教育費	項	05	社会教育費	目	09	文化財保護費
大事業	051	文化財保存事業			中事業	01	文化財保存管理事業		
小事業	01	文化財保存管理事業			03	地域計画作成事業		他 事業	

1.事業の位置付け

旧総合計画	基本構想	7	生涯を通じて学び・育つまちづくり		所管部局	教育委員会事務局
	基本計画	7-4	歴史・文化・芸術の伝承と振興			文化課
旧総合戦略	政策パッケージ	1	移住・定住の促進			
	施策	1-1	シティーセールスの強化			
事業区分	自治事務（任意的なもの）		事業種別	ソフト事業		
根拠法令	有	文化財保護法				
根拠例規	有	坂井市文化財保護条例、教育委員会文化課所管補助金等交付要綱				
関連計画・マニュアル	有	坂井市教育振興基本計画				

2.事業の目的・概要

【事業の目的】
文化財の保存管理に必要な措置を講じ、貴重な文化財を後世に伝えるため、広く市民への公開や活用を通して、文化財保護意識の啓発を行う。

【事業の概要】

- ◆文化財保存管理事業 本庁 9,793千円
 - 報償費（有識者謝礼・文化財管理奨励金） 771千円
 - 需用費（消耗品費・印刷製本費外） 1,225千円
 - 役務費（カモシカ処理手数料・火災保険料） 59千円
 - 委託料 文化財管理委託料（古墳公園等清掃、草刈等） 3,055千円
 - 使用料及び賃借料（土地借上料・パソコンリース料外） 242千円
 - 工事請負費 出世山古墳公園排水路整備工事 540千円
 - 備品購入費 36千円
 - 負担金 全国史跡整備市町村協議会負担金外2件 66千円
 - 補助金 3,799千円
 - 市指定無形文化財保存活動事業費補助金 662千円
 - 指定文化財保存事業費補助金 3,137千円
- ◆地域計画作成事業 7,195千円
 - 報償費（プロポーザル委員および協議会委員謝礼外） 301千円
 - 旅費（特別旅費） 99千円
 - 需用費（食糧費） 3千円
 - 委託料 坂井市文化財保存活用地域計画作成委託料 6,778千円
 - 使用料および賃借料 有料道路通行料 14千円

3.旧総合戦略記載事項

旧総合戦略 記載事項	■無形民俗文化財等広域PR (先人から代々継承されてきた古き良き芸能を広域的にPRし坂井市へ誘導する。地域の良さの再認識と情報発信により多くの人が訪れる賑わいのある地域を目指す)
	■文化財保存活用地域計画の策定 (地域における文化財の総合的かつ計画的な保存及び活用を図るため、文化庁が認定を行う地域計画を策定する)

4.事業のコスト

(単位：千円)

	令和元年度	平成30年度	平成29年度	元・30年度比	
コスト	事業費	16,988	7,609	6,755	9,379
	人件費	19,185	8,757	10,581	10,428
	総事業費	36,173	16,366	17,336	19,807
人員	正職員	2.86 人	1.31 人	1.51 人	1.55 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	人員計	2.86 人	1.31 人	1.51 人	1.55 人
財源内訳	国県支出金	5,980	117	117	5,863
	その他特定財源	9	9	17	0
	一般財源	10,999	16,240	17,202	△ 5,241

5. 事業の目標値と実績等

評価指標		単位	年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
指標	文化財補助金支出件数	件	目標	7	11	11	11	12
			実績		15	11	13	11
			達成率(%)	0.0	136.4	100.0	118.2	91.7
指標の説明		年度に実施した文化財の補助事業の件数						
指標	文化財の新規指定件数	件	目標	2	2	2	2	2
			実績		1	1	2	1
			達成率(%)	0.0	50.0	50.0	100.0	50.0
指標の説明		新たに文化財に指定された件数						
指標	体験学習実施件数	件	目標	2.0	4	5	5	5
			実績		4	5	5	5
			達成率(%)	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0
指標の説明		年度に実施した体験学習の件数						
指標	文化財の保存と活用に関する啓発機会（ワークショップおよびフォーラム）開催件数	%	目標	7	4			
			実績		0			
			達成率(%)		0.0			
指標の説明								

指標に基づく評価
文化財に対する補助・新規指定には、保存維持管理が重要視され、指定の際には慎重な審議が必要となり、件数が大きく増えるものではありません。文化財の保存と活用についての啓発の機会は、準備を進めましたが、コロナウィルスの影響で中止となっています。

6.事業に対する評価

<p>現状と課題</p>	<p>効率性に課題</p>		
<p>文化財所有者ならびに管理者の高齢化あるいは集落の人口減少をはじめ、管理団体のコミュニケーション不足もあり、維持も厳しい状況となっています。特に、人との関係が深い無形文化財保持団体を維持していくために、後継者の確保が必要となってきていますが、人口減少により確保が難しい状況です。 出世山古墳公園については、経年劣化が見られ、年々細かな修繕が必要となっています。樹木についても、計画的に剪定伐採が必要です。 文化財保存活用地域計画を作成するために、昨年度は調査を進めました。市内の文化財は、種類、数共に多いため、計画作成期間にかかわらず、今後も調査を引き続き続けていくことが必要と考えます。また、調査結果を市民に可能な限り公表するなど、市民への文化財についての啓発活動を積極的に行い、郷土への愛着につなげることが保存と活用につながると考えます。</p>			
<p>成果と改善点</p>	<p>無形民俗文化財の公開について、市ホームページ等で周知を行い、無形民俗文化財に対する理解を深めています。また、文化財保存活用地域計画を通して、文化財所有者・管理者アンケートを実施し、当市において現況の把握を行い、計画策定時での事業提案を検討できるものと考えます。 出世山古墳公園の維持管理については、計画的に剪定伐採の予算要求を行っており、少しずつ改善がみられています。細かな修繕についても、次年度に向けて、現況調査を行い、計画的な修繕が必要となります。 坂井市文化財保存活用地域計画は令和元年度からの3年計画のため、初年度は民俗、古墳を主なものとした文化財把握調査を行いました。このことにより、文化財についての掘り起こしとともに、伝統行事を中心とする地域の課題や市民の思いを聞き取ることができました。また、同じく市民の声を聴く機会として、ワークショップ開催の準備のためにいくつかのまちづくり協議会と協議を進める中で、まちづくり協議会同士の連携につながる動きがありました。今後の改善点としては、協議会で協議すべき事項が膨大なため、効率的な進め方が必要とされることです。 小学生を対象とした体験学習では、出土した遺物を展示することで、埋蔵文化財に対する理解を深める場を設けています。</p>		

7.令和2年度から令和6年度間（第2次総合計画前期期間）の方向性

<p>事業の方向性</p>	<p>継続</p>	
<p>方向性の理由</p>	<p>指定文化財を維持していくために気軽に相談できる手法・地域での窓口創設等、文化財所有者ならびに管理者に寄り添った保存・維持方法を検討していく必要があります。 坂井市文化財保存活用地域計画においては、令和3年度末に計画作成、令和4年度に認定申請予定です。その後、令和5年度から計画に基づく文化財の保存と活用に関する事業を展開していきます。</p>	

令和元年度事業分 事務事業評価シート

<事業の名称等>

予算	款	10	教育費	項	05	社会教育費	目	09	文化財保護費
大	事業	051	文化財保存事業	中	事業	11	埋蔵文化財発掘調査事業		
小	事業								他 事業

3.旧総合戦略記載事項

旧総合戦略記載事項	
-----------	--

1.事業の位置付け

旧総合計画	基本構想	7	生涯を通じて学び・育つまちづくり	所管部局	教育委員会事務局
	基本計画	7-4	歴史・文化・芸術の伝承と振興		文化課
旧総合戦略	政策パッケージ				
	施策				
事業区分	自治事務（義務的なもの）		事業種別	ソフト事業	
根拠法令	有	文化財保護法			
根拠例規	無				
関連計画・マニュアル	有	坂井市教育振興基本計画			

2.事業の目的・概要

【事業の目的】
 開発事業による埋蔵文化財の破壊や滅失を防ぎ、埋蔵文化財の保護と開発事業との円滑な調整を図るとともに、調査成果を広く公開し、文化財保護意識の向上と啓発を図る。

【事業の概要】

- 賃金 丸岡城・六呂瀬山古墳群発掘調査作業員賃金（延173名）1,030千円
- 報償費 委員謝礼（5名） 119千円
- 旅費（費用弁償・特別旅費） 167千円
- 需用費 235千円
 - 消耗品費（調査作業・整理作業用具） 231千円
 - 食糧費（会議用お茶） 2千円
 - 印刷製本費（写真現像焼付代） 2千円
- 委託料 6,081千円
 - 調査委託料（六呂瀬山古墳群出土遺物整理作業） 50千円
 - 廃材処分委託料 4千円
 - 試掘調査掘削委託料（大関東遺跡発掘調査・17件） 6,027千円
- 使用料及び賃借料 205千円
 - 有料道路通行料 20千円
 - 発掘調査機材借上料 185千円
- 備品購入費（埋蔵文化財調査用備品） 35千円

4.事業のコスト

（単位：千円）

	令和元年度	平成30年度	平成29年度	元・30年度比	
コスト	事業費	7,872	8,939	7,366	△ 1,067
	人件費	9,056	11,030	13,243	△ 1,974
	総事業費	16,928	19,969	20,609	△ 3,041
人員	正職員	1.35 人	1.65 人	1.89 人	△ 0.30 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	人員計	1.35 人	1.65 人	1.89 人	△ 0.30 人
財源内訳	国県支出金	1,180	1,045	1,200	135
	その他特定財源	5,125	5,000	0	125
	一般財源	1,567	13,924	19,409	△ 12,357

5. 事業の目標値と実績等

評価指標		単位	年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
指標	独自指標	件	目標	120	80	80	70	70
			実績		128	81	52	84
			達成率(%)	0.0	160.0	101.3	74.3	120.0
指標の説明		法93条の届出件数+法94条の通知件数						
指標	独自指標	件	目標	60	60	60	50	50
			実績		49	35	20	64
			達成率(%)	0.0	81.7	58.3	40.0	128.0
指標の説明		試掘調査件数+踏査件数+工事立会件数						
指標	独自指標	件	目標	550.0				
			実績		511.0	471.0		
			達成率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
指標の説明		電話、FAX及び来庁における問い合わせ数の合計						
指標	独自指標	箱	目標	40.0				
			実績		80.0	20.0	11.0	30.0
			達成率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
指標の説明		年間に出土した遺物量（コンテナ換算）						
指標に基づく評価		発掘件数については、新幹線に関連する調査や消費税増税に伴う住宅の駆け込み建築の影響に伴い、増える傾向にあると思われます。						

6.事業に対する評価

	効率性に課題		
現状と課題	<p>近年、埋蔵文化財包蔵地内での工事の際に、発掘届出書の提出を求めるよう指導し続けており、届出の件数が増えてきました。現在、埋蔵文化財専門職員の不足により、試掘調査や工事立会の日程が重なることもあり、市民等の施主の要望に応えることが難しいなど、問題も生じてきています。そのため、本業務に対応できる埋蔵文化財専門職員の増員が必要であると考えます。届出の件数が増えたことで、埋蔵包蔵地の地下の様子を確認する調査が増えてきています。試掘調査にかかる予算の不足も危惧されることから、予算の見直しが必要と考えます。</p> <p>試掘調査等で出土した遺物は、廃園になった幼稚園や旧事務所で保管しており、建物の老朽化も進んでいることから、新たな保管場所を確保する必要があります。倉庫等での保管は、遺物に適した環境で保存することができないというデメリットがあります。開発事業が進む中で発掘調査時に金属製品や木製品が出土した場合は、保管が難しい現状です。今後、丸岡城や六呂瀬山古墳群の調査で出土した遺物の保管方法と合わせて、適切な施設の確保や整備について検討していく必要があります。</p>		
成果と改善点	<p>近年では、埋蔵文化財包蔵地内での工事を行う際、届出等の提出を求めるよう指導し続けている成果もあり、届出の件数が年々増加傾向で、市民等への周知も進んでいると思われます。小学校児童を対象とした体験学習の中で、市内で出土した遺物を一時的に会場に展示活用することで、親子に埋蔵文化財に対する理解の場を設けていますが、収蔵施設とあわせて、市民をはじめ、多くの方々に常時、埋蔵文化財に対する普及啓発施設も整備する必要があります。</p> <p>市政広報を活用し、埋蔵文化財の届出や発掘調査の概要についても紹介しました。</p>		

7.令和2年度から令和6年度間（第2次総合計画前期期間）の方向性

事業の方向性	継続	
方向性の理由	<p>福井県内でも2番目に埋蔵文化財包蔵地が多い坂井市では、地下に多くの文化財が残っている可能性が高いと言えます。そのため、開発行為を行う際の届出を今後も徹底していき、適切な指導を行っていくよう努めていきます。それに伴い、今後も増加する出土遺物を整理・保管・公開していく機能を持つ施設の確保、また、対応できる埋蔵専門の職員の適正配置、整理・公開に対応できる職員等の育成、試掘調査の予算の見直しなどの改善が必要となってきます。</p>	

令和元年度事業分 事務事業評価シート

<事業の名称等>

予算	款	10	教育費	項	05	社会教育費	目	09	文化財保護費
大	事業	051	文化財保存事業	中	事業	21	丸岡城関連施設管理運営事業		
小	事業							他 事業	

3.旧総合戦略記載事項

旧総合戦略 記載事項	
---------------	--

1.事業の位置付け

旧総合計画	基本構想	7	生涯を通じて学び・育つまちづくり	所管部局	教育委員会事務局
	基本計画	7-4	歴史・文化・芸術の伝承と振興		文化課
旧総合戦略	政策パッケージ				
	施策				
事業区分	自治事務（任意的なもの）		事業種別	指定管理事業	
根拠法令	有	地方自治法			
根拠例規	有	丸岡城条例、一筆啓上日本一短い手紙の館条例ほか			
関連計画・マニュアル	有	坂井市教育振興基本計画			

2.事業の目的・概要

【事業の目的】	
丸岡城関連施設を指定管理者に委託し、丸岡城関連施設の円滑かつ現場に即した適切な管理を行い、丸岡城の観光の充実と地域の文化振興を図る。	
【事業の概要】	
○役務費	91千円
丸岡城関連施設火災保険料	63千円
丸岡歴史民俗資料館寄託資料損害保険料	28千円
○委託料	1,064千円
丸岡城周辺樹木剪定・伐採業務委託料	
○使用料及び賃借料	1,372千円
丸岡城周辺土地借上料	
○負担金	1,100千円
指定管理者修繕料負担金（丸岡城漆喰壁修繕）	

4.事業のコスト

(単位：千円)

	令和元年度	平成30年度	平成29年度	元・30年度比
コスト				
事業費	3,628	7,635	9,984	△ 4,007
人件費	2,616	7,821	4,344	△ 5,205
総事業費	6,244	15,456	14,328	△ 9,212
人員				
正職員	0.39 人	1.17 人	0.62 人	△ 0.78 人
臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人
人員計	0.39 人	1.17 人	0.62 人	△ 0.78 人
財源内訳				
国県支出金	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	200	0
一般財源	6,244	15,456	14,128	△ 9,212

5. 事業の目標値と実績等

評価指標		単位	年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
指標	丸岡城入場料収入	千円	目標	44,000	44,000	44,000	33,300	32,200
独自指標			実績		60,014	51,970	50,648	42,476
			達成率(%)	0.0	136.4	118.1	152.1	127.9
指標の説明								
指標	丸岡城入場者数	人	目標	140,000	140,000	140,000	150,000	130,000
独自指標			実績		147,542	128,158	127,624	154,877
			達成率(%)	0.0	105.4	91.5	85.1	119.1
指標の説明								
指標			目標					
			実績					
			達成率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
指標の説明								
指標			目標					
			実績					
			達成率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
指標の説明								
指標に基づく評価	利用料収入は、丸岡城の観覧券で歴史民俗資料館と手紙の館に入館可能な3館共通券の販売を開始して以降、目標値を上回っています。入場者数も、繁忙期の天候が良かったため目標値を上回っています。今後も、丸岡城と手紙の館を活かした歴史文化事業を展開していくことで、観光面・文化面での賑わい創出を図れるよう支援していきます。							

6.事業に対する評価

現状と課題	効率性に課題			<p>入場者数は前年度と比較し増加しています。指定管理者は地元の団体や行事に協力し、団体のイベント開催時には観光客誘致策を取るなど、地元団体と連携できるような関係を構築しています。今後、観光客のリピーターの確保やさらなる入場者増加が図られるよう関係機関と連携を図りながら、適正な施設管理を行い、丸岡城及び丸岡歴史民俗資料館、一筆啓上日本一短い手紙の館を一体化した観光と歴史文化の充実とPRを図るよう求めています。</p>
成果と改善点	<p>入場者数は繁忙期の天候が良かったため、前年度の実績と今年度の目標値を上回りました。また、施設管理としては緊急の修繕対応や計画的な樹木剪定や伐採を通して、丸岡城周辺の景観を改善するよう努めました。丸岡観光ボランティアガイド協会の協力を得ながら、城内の案内を行い、団体客の取り込みを図りました。今後も丸岡城周辺の一体的な管理運営を行い、観光面・文化面での賑わい創出を図っていきます。</p>			

7.令和2年度から令和6年度間（第2次総合計画前期期間）の方向性

事業の方向性	継続	
方向性の理由	<p>今後も観光と文化振興の一体的な拠点としてPRし、指定管理者に施設管理を委託し、適切な維持管理を行い、観光の充実と歴史文化の振興を図っていきます。</p>	

令和元年度事業分 事務事業評価シート

<事業の名称等>

予算	款	13	諸支出金	項	02	基金費	目	09	丸岡城周辺整備基金費	
大	事業	01	丸岡城周辺整備基金	中	事業	01	丸岡城周辺整備基金			
小	事業								他	事業

3.旧総合戦略記載事項

旧総合戦略 記載事項	
---------------	--

1.事業の位置付け

旧総合計画	基本構想	7	生涯を通じて学び・育つまちづくり	所管部局	教育委員会事務局
	基本計画	7-4	歴史・文化・芸術の伝承と振興		文化課
旧総合戦略	政策パッケージ				
	施策				
事業区分	自治事務（任意的なもの）		事業種別	内部管理事業	
根拠法令	無				
根拠例規	有		丸岡城周辺整備基金条例		
関連計画・マニュアル	無				

4.事業のコスト

(単位：千円)

	令和元年度	平成30年度	平成29年度	元・30年度比	
コスト	事業費	18	19	6,040	△ 1
	人件費	134	401	420	△ 267
	総事業費	152	420	6,460	△ 268
人員	正職員	0.02 人	0.06 人	0.06 人	△ 0.04 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	人員計	0.02 人	0.06 人	0.06 人	△ 0.04 人
財源内訳	国県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	18	19	40	△ 1
	一般財源	134	401	6,420	△ 267

2.事業の目的・概要

【事業の目的】
丸岡城周辺の整備及び丸岡城に関する資料の購入に必要な財源に充てるため、丸岡城周辺整備基金を設置する。

【事業の概要】
丸岡城周辺整備基金に係る運用益等の積立を行う。
○積立金 19千円
城周辺整備基金積立金（預金利息）

平成30年度末 現在高 ①	平成30年度中増減額		令和元年度末 現在高①-②+③
	取崩額 ②	積立額 ③	
183,557千円	0千円	19千円	183,576千円

5. 事業の目標値と実績等

評価指標		単位	年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
指標	年度末基金残高	千円	目標					
			実績		183,576	183,557	190,538	198,182
独自指標			達成率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
指標の説明								
指標			目標					
			実績					
			達成率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
指標の説明								
指標			目標					
			実績					
			達成率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
指標の説明								
指標			目標					
			実績					
			達成率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
指標の説明								
指標に基づく評価	基金の設置目的を踏まえた運用を図っていきます。							

6.事業に対する評価

現状と課題	課題はない		
成果と改善点	預金利子分を積み立て、適切に基金管理を行いました。		

7.令和2年度から令和6年度間（第2次総合計画前期期間）の方向性

事業の方向性	
方向性の理由	基金を積み立てる事業のため、評価しないこととします。